

○ さつま町 中津川区むらづくり委員会

1 地区概要

中津川区は、さつま町の中心部から東へ10kmほどの薩摩川内市祁答院町と隣接した水田地帯で、地区内には、県の「森林浴の森70選（溪流コース）」にも選ばれている観音滝公園や、「永江の滝」と呼ばれる落差21mの勇壮な滝、白猿の棚田などがあり、豊かな自然環境に恵まれた地区である。

農業は、水稻・畜産・薩摩西郷梅を組み合わせた複合経営が主体である。特に水稻は、普通期米の採種ほ場として採種生産組合が設立されており、鹿児島県の種もみの生産を担っている。

当地区におけるむらづくりへの関心は高く、以前から地元産のさつまいも・米麴を使った焼酎「金吾さあ」づくりや、伝統芸能の継承活動等に取り組んでいた。近年も、公民館組織と各公民会の役員やイベントごとに結成されている実行委員会が中心となって、「みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」を目指し、日曜朝市の実施や景観づくり等の活発なむらづくり活動を展開している。

2 むらづくりの内容及び成果

(1) 農村集落の再生

中津川区むらづくり委員会は公民館長、各公民会長（5公民会）、地域担当職員（役場職員）に加えて6つの専門部会長の話し合いにより運営している。

平成23年には、地域の目標や将来像を示した「中津川地区地域づくり活性化計画書～むらのかたち～」を作成し、地区の目標に基づき、むらづくり関連の行事等についても話し合い活動を基本としながら推進が図られている。

【地区の組織体制図】



(2) 新たなむらづくりの形成

ア 「なかっこ日曜朝市」で経済活動
平成23年8月に住民自らの手で日曜朝市を建設し、地元産の野菜や加工品等の販売を行っている。

イ 自主財源づくりの取組
地区内の遊休農地に栽培したさつまいもを使った焼酎「金吾さあ」を製造（町内酒造会社へ委託）・販売している。

ウ 地域営農の仕組みづくり
別野公民館で農作業受託組合を設立し、地区内の稲刈り作業等の受託を行っている。

エ 水田を利用した新たな景観づくり
平成16年度から水田の景観を利用して「イルミネーション IN なかっこ」を開催しており、鹿児島市内からも観客が訪れている。

オ 伝統芸能を活用した都市農村交流
大石神社秋季大祭（金吾様踊り）は、地元中高生も準備に参加し、また、新聞やテレビを通じて広くPR活動も行う。当日は、地区内外からの多くの観客で賑わう。



大石神社大祭
（金吾様踊り）



イルミネーション IN なかっこ

(3) むらづくりの維持・発展

ア 農村環境保全の取組
全集落で中山間地域等直接支払制度を活用した水路・農道の整備が進んでいる。

イ 大念仏踊りの復活
昭和30年以降途絶えていた「大念仏踊り」の復活に取り組んでおり、全部で48種類あると言われる「大念仏踊り」のうち、「地割れ舞」を復活させることができた。

3 今後のむらづくりの方向性

「伝統を引き継ぐ“中津川の底力！”みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」をスローガンに、先人達が築きあげてきた自然環境や郷土芸能等を、地区住民の融和と団結の力で、さらに発展させる。

具体的には、日曜朝市の定期実施を図るための野菜栽培の拡大、地元農産物を使った加工品の開発、伝統芸能「金吾様踊り」の後継者育成、「地割れ舞」以外の「大念仏踊り」の復活等に取り組むこととしている。